

日ポ・サロン会報

日ポ・サロン会報 第21号

発行日 令和3年3月20日

事務局 日ポ・サロン
長岡 正

〒573-0084 枚方市香里ヶ丘6-14-6

TEL.072-852-2147

<http://www.nipposalon.org/>



ヴァベル城 (クラクフ)

創設 21 年目に感謝を込めて

ポーランド留学生支援団体 日ポ・サロン代表

高 島 和 子

思いもかけず昨年はコロナに明けコロナに暮れた一年でしたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか？お伺い申し上げます。

日ポ・サロン18期生トーマス・ディモフスキ君の送別会後、神戸大学がコロナにより秋の留学生招致の中止を決定し来年に延期する事としたので、日ポ・サロンの新留学生チャルニ・クラウディアさんの招聘を来期に延期としました。続いて予定していた5年に一度のショパンコンクール・ガラコンサート出席のポーランド旅行もショパンコンクールの開催が来年に延期となつてしまいましたので、旅行も延期とせざるを得ませんでした。

一面、嬉しい事もあり日ポ・サロンの活動も21年目に入り私達の志に賛同下さって15名もの新入会員をお迎えする事ができて会員数が127名になりました。友から友への心強いバトンタッチが大変嬉しく有り難く、何よりの喜びとして感謝しています。

又、日ポ・サロン20周年記念誌に寄稿してくれましたかつての留学生達の様々な活躍ぶりや日ポ・サロンへの感謝と想いの深さを読ませて頂き、あの人がこんな風に、この人がこのようにと過ぎし歳月のあれこれを思い出し、会員皆様に支えられ助けられて一緒にこの活動が続けてこられた事で、ポーランドの若者に手を差し伸べるチャンスが継続され、国際貢献の一灯として意義深いものになっていると改めて心より深謝しています。

今後共、お仲間としての交わりを通して志が受け継がれて行く事を願いつつ、コロナにより幾つかの行事が中止となった年の会報第21号をお届けします。ご一読下さいませ。

総会並びに講演会

2020年2月1日(土)
於/ホテル エルセラーン大阪 3階宴会場
参加会員30名・委任状提出62名

<第1部> 司会・進行 大和田

1. 2019年度 事業活動報告 高島
2. 2019年度 会計報告並びに監査報告 川端/長岡
3. 2020年度 事業活動概要報告 高島

* 新留学生招聘

* 春の親睦会(鈴鹿枝垂れ梅観梅ツアー)

* ポーランド錦秋の旅 以上中止

4. 今年度役員紹介

高島・岸本・田中・吉岡・川端・松下・大和田
澤瀉・長岡

<第2部>

1. 講演会 講師 さいりょうこういち 西良耕一
(株式会社西谷金属代表取締役社長)

演題「江戸時代の食文化について」

2. 新留学生紹介並びにスピーチ

トーマス・ディモフスキ
(神戸大学国際文化学部)

演題「萩原朔太郎について」

<第3部> 昼食親睦会

2020年度 日ポ・サロン総会・親睦会に
参加して

酒井欣也

昨年、日本とポーランドの国交樹立100年というタイミングの仕事で、日ポ・サロンをご紹介頂き、ポーランドに興味を持ち入会しました。よろしくお願ひします。

第1部の総会では高島代表から、まず2019年度の事業活動報告があり、○新留学生の招聘 ○春の親睦会 ○秋の親睦会 ○送別会の開催、等があり、会計報告、監査報告を経て承認されました。その後、2020年度の事業活動概要として、○新留学生の招聘 ○春の親睦会 (3/14開催)

○ポーランド錦秋の旅(10/14~10/24、関空発) ○送別会、等の発表、そして今年度役員の紹介がありました。

第2部の講演会では、(株)西谷金属代表取締役社長 西良耕一様の「江戸時代の食文化について」と題して、醤油、刺身、すし、蕎麦等について、時代の流れに沿っての変遷を教えてくださいました。

醤油については、奈良時代から肉醬、魚醬、草醬、穀醬が味付けに使用され、味噌にも変化し、なめ味噌等、中国からも伝わっていたようです。

1580年に湯浅で大豆から溜まりをとって醤油の製造を始めたという文章が残っており、1587年に龍野で醤油造りが始まって全国へ広がっていったようです。

1603年から江戸時代と言われているので、ほぼその時代からですね。

すしについて、奈良時代は、なれすし、鮓酢(ふなすし)など、米と魚を酢に漬け込む。室町時代は、なまなれ、飯と一緒に食べる、蒸飯、炊く、といった発酵、乳酸系の食べ物だった。江戸時代中頃からは、早すし、米に酢を混ぜて魚と食べる、酢酸系に変化してきた。1820年には握りすしが食されたという記録がある。

蕎麦については、70日から80日ぐらいで作れることから、年3回つくり、量が確保しやすかった。荒れた土地でも作りやすかった。大阪城を築城のために働く人夫たちが集まっていた「砂場」で食べたのが蕎麦。そばがき、麺、そば切り、二八そば、ぶっかけ、もり、ざる、たけ、といろんな食べ方が、落語でもよく出てくる、楽しい話でした。

第3部、新留学生 トーマス・ディモフスキさんの紹介、ワルシャワ大学での研究テーマ「萩原朔太郎」について、日本の近代詩の父ということで、日本人の深層心理を追及、研究していると発表。萩原朔太郎の詩集「月に吠える」、「青猫」、「恐ろしく憂鬱」等、を紹介してくれました。研究の領域が日本滞在中に幅広くに実となりますよう祈ります。美味しい食事を頂きましたことを感謝します。

追記、3月14日の春の親睦会、しだれ梅ツアー 楽しみにしております。

「萩原朔太郎の研究」

2019-2020年 招聘留学生
トーマス・ディモフスキ
(神戸大学国際文化学部)



私は萩原朔太郎（1886-1942）について研究しています。群馬県、前橋に生まれた萩原は象徴主義という新しいスタイルの詩を作りました。いわゆる新体詩です。現在も彼は、「日本近代詩の父」と呼ばれています。なぜかという口語由詩を上手に作ったからです。彼は恵まれた家族に生まれました。父は裕福な開業医で生活には困りませんでした。周囲の人に見下ろされていました。故郷に受けた印象を30歳の頃、「郷土望景詩」という詩に語っています。若い頃から風邪をすぐに引いていたし体が弱かったです。それだけではなく精神的に良くないです。つまり病気のために憂鬱でした。彼の学生生活はうまく行かなかったです。1910年慶應義塾大学に入学して一年中で不勉強と病弱のため退学しました。この後彼はマンドリンを習いましたし音楽会に参加して、音楽、オペラなどを楽しめます。1912年に北原白秋に傾倒して「朱鸞」という雑誌に投稿するに始まりました。この経験をきっかけに1917年に第一詩集「月に吠える」を発刊して、1923年に第二詩集「青猫」を発刊しました。

この2冊の詩集は彼の一番有名な詩集ですので、私は「月に吠える」を中心に「青猫」についても詳しく研究したいと思います。本研究の目的は、萩原の詩の象徴や悲しみやニヒリズムなどの原因と意味を明らかにしたいと思います。私の研究の方法は萩原の色々な研究者と本研究の調査に基づいて研究することです。様々な研究者は色々な考えがあるかもしれないが、一番大切だと考えられる結果を選んでその研究者の意見と自分の意見を併わせて述べたいと思います。

この詩集「月に吠える」は朔太郎の処女詩集で日本の近代詩の概念を全く変革してしまいました。中村真一郎によればそれまでの読者が「詩的」と感じ

ていた情景が全く見られないです。高い詩情を持つ詩人として彼は詩の中に自分の魂の告白をする。彼の歌ったものは創造者の悲哀と深い郷愁です。このため萩原をデカダンの人と呼んでもいいと思います。

「月に吠える」は次のように作られた詩集です。7つの章「竹とその哀傷」、「雲雀料理」、「悲しい月夜」、「くさった蛤」、「さびしい情欲」、と「見知らぬ犬」です。この章のタイトルだけを見ると「確かに暗い内容ですね」と考えます。タイトルの意味は萩原が序に表している通りに、「月に吠える犬は、自分の影に怪しみ恐れて吠えるのである」ということで前述べた犬は詩人の姿の象徴だと思います。一番目の詩は印象的で地面は寂しく病気です。つまり地面は人間のように感情を持ちます。次のように流れています。

地面の底に顔があらはれ。
さみしい病人の顔があらはれ。
地面の底のくらやみに、
うらうら草の茎が萌えそめ、
鼠の巣が萌えそめ、
巢にこんがらがってゐる、
かずしれぬ髪の毛がふるえ出し、
冬至のころの、
さびしい病気の地面から、
ほそい青竹の根が生えそめ、
生えそめ、
それがじつにあはれふかくみえ、
けぶるごとくに視（み）え、
じつに、じつに、あはれふかげに視え。
地面の底のくらやみに、
さみしい病人の顔があらはれ。

この「地面の底の顔」がさびしい人の病気の顔ですが、この地面から「ほそい青竹の根が生えます」ので、つまり地面は顔ですか？それとも地下に病気の人の顔が見られますか？そして詩の作り方が素晴らしいと思います。連用形と例えば「萌えそめ、生えそめ、あらはれ」は何回も繰り返しますので、リズムができます。次は「竹」です：

光る地面に竹が生え
青竹が生え
地下には竹の根が生え
根がしだいにほそらみ
根の先より繊毛が生え
かすかにけぶる繊毛がはえ
かすかにふるえ。

かたき地面に竹が生え
地上にするどく竹が生え
まっしぐらに竹が生え
凍れる節節りんりと
青空のもとに竹が生え
竹 竹 竹が生え。

彼は竹の世界を紹介して、次のように「光る地面に竹が生え、青竹が生え」地面に見られる様子と地下の部分「かたき地下に竹が生え」も説明します。私たちはだいたい地面を見るだけですが、詩人は地下の部分に興味があります。角田敏朗によれば地下の部分は詩人の神経を表しています。そして、地面は光っているが、地下は「凍れる」のですから詩人はこの光る地面に興味を持たないみたいです。冷たい地下をもっと詳しく知りたいです。なぜこの詩は詩的ですか筆者は次のように考えます。それは、連用形の効果や5音7音のリズム、リフレインなどが重なっているからだと思います。つまり、「竹が生え」を何回も繰り返して、詩のリズムが作られる。中村真一郎も萩原の詩の実体は歌われた対象ではなく、その詩の持つ「音楽」と「リズム」ですと述べています。

青猫は朔太郎の「月に吠える」を発刊した6年後の第二詩集です。序に詩人は述べているように自分の詩の本質を分析しています。「私の情緒は、激情といふ範疇に属しない」。それは「しづかな靈魂ののすたるぢや」です。「静かに靈魂の影をながれる雲の郷愁である」。遠い遠い實在への涙ぐましいあこがれである」。青猫という詩集も暗い雰囲気を含んでいると思います。なぜかという萩原は自分の影、つまり悪い印象と悲しい過去から逃げたいがそれはできないのです。彼は自分の影に恐れて、感情的な詩を作ります。「青猫」という詩の前に次のような文が書かれている「ここには一匹の青猫が居る。そうして柳は風にふかれ墓地には月が登つてゐる」。この文章は詩集の全部の雰囲気と意味を表していると思います。詩は次のように書いてあります：

この美しい都会を愛するのはよいことだ
この美しい都会の建築を愛するのはよいことだ
すべてのやさしい女性をもとめるために
すべての高貴な生活をもとめるために
この都にきて賑やかな街路を通るはよいことだ
街路にそうて立つ桜の並木
そこにも無数の雀がさへづつてゐるではないか。
ああ このおほきな都会の夜にねむれるものは
ただ一匹の青い猫のかげだ

かなしい人類の歴史を語る猫のかげだ
われの求めてやまざる幸福の青い影だ。
いかならん影をもとめて
みぞれふる日にもわれは東京を恋しと思ひしに
そこの裏町の壁にさむくもたれてゐる
このひとのごとき乞食はなにの夢を夢みて居るのか。

都会の夜空に眠る「青猫」の影。それは何かの美のようなものを感じさせるのですが、しかしこれは萩原の個人的な情意表象ですし、一般的には解きにくい造語です。これは筆者が自分の自序に表しています。「集中の詩『青猫』にも現れてのごとく、都会の空に映る電線の青白いスパークを、大きな青猫のイメージに見ているので、当時田舎にいて詩を書いていた私が、都会への切ない郷愁を表象している」という部分があります。実際にはこの解説も十分とは言えないが、詩人は書いたもののイメージを表します。

「ただ一匹の青い猫のかげだ、かなしい人類の歴史を語る猫のかげだ、われの求めてやまざる幸福の青い影だ」この部分で猫の影があるので、この猫はなんか昔の悲しさを考えさせます。そして田舎と異なる魅惑的なところとして、青猫の影の映る都会を夢見たのです。

次は萩原朔太郎はオノマトペを時々使いました。これは動物の声だけではなく、心の感情でも表しています。例としては「恐ろしく憂鬱」：

こんもりとした森の木立のなかで
いちめんに白い蝶類が飛んでゐる
むらがる むらかりて飛びめぐる
てふ てふ てふ てふ てふ てふ てふ
みどりの葉のあつぽったい隙間から
ぴか ぴか ぴか ぴかと光る そのちひさな鋭い翼
つばさ
いっばいに群がつつとびめぐる
てふ てふ てふ てふ てふ てふ てふ てふ
てふ てふ てふ てふ

ああ これはなんといふ憂鬱な幻だ（中略）

作者はこの詩で表現したのは、蛾と蝶そのものの群がりではない。「てふ てふ てふ」という蝶の羽音でもないです。その主題は「ああこれはなんといふ憂鬱な幻だ」というその憂鬱なものです。

以上で、萩原朔太郎は高い詩情を持つ詩人で印象的な世界を作って日本で新しいスタイルの詩またはオノマトペの詩を広げたと言えます。彼の世界は深い懐かしさと悲哀を含んでいます。その結果、萩原は現代詩のシンボリックな詩人と思わないでしょうか。

トーマス・ディモフスキ送別会

2020年8月24日(月)
於/ホテル エルセラーン大阪
参加23名



2019-2020年 招聘留学生

トーマス・ディモフスキ
(神戸大学国際文化学部)

日ポ・サロンの皆様、こんにちは。今日はお時間を作っていただき誠にありがとうございました。私の送別会になりました。金曜日に帰国しますが、まだ信じられません。この一年間の留学は私の命で非常に大切なことでした。皆様のご支援で私の夢が事実になりました。おかげで私は2019年10月から今年の8月まで、神戸大学で日本語や日本文化や日本文学などを学ぶことができました。そのため皆様に大変感謝いたします。

その一年間でたくさんのことを勉強して様々な地方で旅行ができました。私の研究テーマ「萩原朔太郎」の出身地も見学することができました。そのため帰国後、修士論文を書き終わることができます。今日の発表の順番は次の通りです。最初は留学の経験についてお話しします。例えば生活の習慣、授業、日ポ・サロンとの文化交流、驚いたことなどを皆様にご紹介します。次は私の旅行、広島と長崎などで受けた影響です。そして私の研究です。

私は9月25日に来日しました。金子家の家に泊めてくださいましたので、本当にお世話になりました。その時は不思議な感情がありまして、まだ日本にいるのかと信じていませんでした。神戸と大阪を見学したいと思って、あちらこちらに行ったり来たりしました。思い出したのは、例えばハーバーランドや神戸にある私の好きな湊川神社や大阪城やどうとんぼりなどです。

すぐ阪急電車を使えるようになりまして日本の生活にだんだん慣れ始めました。10月は住吉寮に移動して神戸大学に通学し始めました。私は日本語のたくさんの授業を取りました。登録した授業は例えば作文、文法、会話、漢字などです。それだけでなく、私は文学に興味を持ちますので文学部の講義に聴講生として参加させていただきました。しかし、多くの文学部の授業が日本人の専門家向けですのでテーマは難しくて意味が時々通じないです。例えば1回参加した授業で大鏡という歴史物語について話しましたが、さっぱりわかりませんでした。先生は藤原氏の系図を書いて説明しましたが、全然わかりませんでした。

そして、書道に興味を持ちまして文学部の書道実技の授業にも参加しました。その授業は役に立ったと思います。漢字の書き方を始めとして平仮名の字源、旧活字、甲骨文なども勉強しました。書道に興味を持ちますのでその基本的なことに欠かせません。書道実技の内容は昔、動物の皮や亀の甲を通して中国人は漢字を書きました。その後も漢字が日本に移っていきまして漢文になりました。残った30分で漢字を書いて先生は直していただきました。結びや線や字形はやはり大事でそれを全部勉強しました。そして、平仮名とカタカナの元々の形は何かと教えられて、その漢字の変化が本当に面白いと思いました。

日本語の授業で他の国の留学生が参加しましたので、様々な人と交流することができました。日本人の学生友達もできました。私は書道のサークル部活に参加して毎週書道の勉強をしながら面白い会話ができました。おかげで11月の六甲祭のときわたあめの販売に手伝っていました。残念ながらコロナの影響で春の1、2クォーターが中止されまして、全部の授業がオンラインになりました。部活やイベントなどが中止になりました。それにもかかわらず面白い授業を取ることができました。例えば、異文化コミュニケーションとビジネス日本語です。

ビジネスの表現と敬語の難しさに気づいて何となく使えるようになりました。1クォーターはメールの書き方でした。お詫びのメールやご案内メールなどの書き方についていろいろ学びました。2クォーターは電話の練習でした。例えば、会社で使われている表現やアポ取りやおつなぎなども身に着けるよう練習しました。やはり会社の敬語とルールは難しいですが、一回日本の会社に働いてみたいと思いました。もし機会があればそうします。

そして、文学部の「平家物語」についての授業に

も参加しました。異文化の授業は本当に優しい先生で担当され日本文化の貴重な点と自分の文化とつながりについてたくさん学びました。そして、毎週宿題があり色々な文化のトピックについて書かなければなりませんでしたので、日本社会を研究するための言葉と情報を身につけました。本当に役に立った経験でした。おかげで私は最近行われたお盆の違いと似ているところに気づきました。今は皆様に自分の予想を紹介させていただきます。まず見えると見えない文化を中心に日本とポーランドのお盆の習慣を説明します。見える文化と見えない文化というのは氷山のように海面の上にある部分は見える文化を表します。海で隠された部分は見えない文化の象徴です。見える文化というのは例えば食べ物、写真です。お盆の場合はそれはお墓参り、仏壇の飾り方、花火やろうそくに火をつけることなどです。つまり日本とポーランドの文化を知らない人が見えることができます。お盆の見えない文化というのは習慣の意味、どうしてそのようにお墓参りをするのか？とかどうして日本人は食べ物を供えるのか？そしてポーランドの場合はペイガニズムとカトリックの違い。ペイガニズムの時代（966はポーランドの洗礼があって、カトリックが始まりました）例えば昔も食べ物を供える習慣がありました。

例えば見える文化の中にはお墓参りと礼儀があります。その時ポーランド人と日本人もお墓参りをして、日本人は食べ物（ナス、きゅうり、お酒かお米など）を供えて亡くなった先祖と話します。それに対しポーランド人は1日に教会に行き祈ります。次の日はお墓参りをしてろうそくに火をつけてお墓の横に祈ります。

お墓参り	お盆の意味
礼儀	食べ物を供える意味
仏壇を飾る(日本)	魂が来るという信頼
お墓に火をつける(ポーランド)	ペイガニズムの習慣
花火(日本) 蠟燭(ポーランド)	祈ること

しかし、昔はポーランド人もお墓に食べ物とお水を供えました。昔の人も魂がお腹が減ったと信じていましたからです。ペイガニズムの時代も様々なところでは先祖を表した彫刻が建ってありましたので、お墓ではなくその彫刻の下に食べ物を供えていました。それは日本と似ていると思います。それは見える文化ですが、その魂を喜ばせて食べさせるという意味が見えないです。日本人も仏壇の先祖の写真に対して話して食べ物とかを供える。

今でも日本とポーランドの信頼は似ていると思います。そのように考えると見える文化は絶対違うし見えない文化が繋がります。ポーランドの元々のペイガニズムの宗教のシステムで先祖の魂が来るから食べ物を供えるのが大事でそういう習慣がありました。辛島先生の授業にも参加させていただきまして、英語で書かれたニュースと志村けんさんに関するテキストを日本語に翻訳しました。私は志村けんさんのユーモアが好きで彼は亡くなって本当に残念です。

日ポ・サロンのメンバーとご一緒に初めて11月の高取カカシ祭りを体験しました。おかげで楽しく見学しました。カカシはそんなに可愛いと思いませんでした。ポーランドのは怖いからです。その後キトラ古墳を見学に行ってそこにある博物館に面白い展示会を拝見しました。11月も松下さんから雅楽のチケットをいただきました。おかげで初めて雅楽を体験することができました。びっくりしたほど非常に素晴らしかったです。そのため雅楽の音楽が気に入りました。

そして11月も大阪EXPOに参加することができました。去年の留学生のアシャちゃんは私を旅行会社のトマシュさんに紹介して、おかげで2日間でEXPOの時に手伝っていました。日本人に色々紹介したりポーランドについて話したりしましたので、やはり新しい経験でした。多くの日本人はポーランドに興味を持ちまして驚いて嬉しかったです。11月も高島さんと長岡さんと二人のポーランド人の留学生とご一緒に嵐山の紅葉を見に行きました。日本の紅葉の赤みにびっくりしました。そんな綺麗な秋を感じたことがなくて感謝しました。天気も素晴らしかったし、美味しい蕎麦屋さんに連れていただきました。

11月末は日ポ・サロンのおかげで人形浄瑠璃を初めて体験しました。私は以前、人形浄瑠璃について勉強しました。なぜかという私のワルシャワ大学の担当者Kubik先生の専門は人形浄瑠璃、文楽ですから。テレビや動画で見てそんなに面白くないと思ひまして、本物を見て初めて文楽の美しさと深さを感じることができました。

11月から日ポ・サロンの方々と交流ができました。徒然会に徒然草という小説を読んで古文の能力を伸ばすことができました。それだけではなく皆様の関西弁を聞き取ることができ面白い日本文化についてのお話をしました。そのため、いろいろ勉強になりました。



そして、日本文化といえば私は非常に勉強になりました。日本語はもちろん高コンテクストで螺旋的な言語だと思っています。つまり、何かについて話しているときに直接に言わないと相手がすぐわかる。表情やジェスチャーなどで意味が明らかになる。例えば、カフェに誘われた日本人が「行きましょうか。コーヒーは好きなんですけど。。。」、最後の部分は「今はちょっと無理です」という意味を表す。相手に誘われたことで嬉しさを表すが、迷惑をかけないように会話を止める。そんな文化に慣れた人には隠された意味を通じるかもしれないが、低コンテクスト文化の人には、否定の意味がわかりにくくなるようだ。そのため、螺旋的な言語は高コンテクストの言語だ。他の例として、神戸大学の学生が所の名前を省略し、皆はわかるが、私は他のコミュニティーの人だからすぐわからない。私にはポーランド語が高コンテクストと低コンテクストの間にあると思われる。なぜかというポーランド人も螺旋的な言い方を少し使って特に友達の中に省略します。そのため外国人はポーランド語を勉強しているのに意味のわからないところがたくさんあります。

私は、日ポ・サロンと高島さんのおかげで日本ポーランド協会関西センターから5万円のご支援をいただくことができました。そのため2月にポーランド現代文学について発表させていただきました。それは本当に面白くて自分の国の文学についても勉強になりました。私は毎日ポーランド文学に関して日本語で書かれた研究や小説などを読みながら原稿とプレゼンテーションを作りました。日本人の文学者はどういうふうを考えるのかとかポーランド文学からどんな影響などを受けるのかと明らかになりました。そして、今まで翻訳された小説と短編小説の数にびっくりしました。その支援のおかげで私は東京に行くことができまして、萩原朔太郎の出身地、

群馬県の前橋も見学することができました。東京の旅行は私の初めての旅行で一週間ぐらいで東京と前橋と鎌倉などを訪問しました。毎日20キロぐらいを歩きましたし、建築巡りしたり関東料理などを楽しむことができました。東京の浅草寺を始めとして池袋の古本屋さんにも行ったことがあります。そして東京で一番大きな本屋さん萩原研究の本を見つけることができました。以前も発表させていただいたが、私の研究をもう一度紹介したいと思います。

それは萩原朔太郎の詩というテーマです。前橋に生まれた萩原は象徴主義という新しいスタイルの詩をつくりました。いわゆる新体詩です。現在も彼は「日本近代詩の父」と呼ばれています。なぜかという口語由詩を上手に作ったからです。彼の父は本当に役に立ったお医者さんで、前橋は特にその頃小さい町でしたので萩原先生はよく知られていた。しかし、萩原はいつも芸術と音楽に興味を持ちまして両親に心配をさせていた。彼の健康もいつも問題でした。弱くてすぐ風邪を引いたりして歳をとるにつれて気分が沈んでいました。1910年、慶應義塾大学に入学して一年で不勉強と病弱のため退学しました。この後、彼はマンドリンを習いまして詩を書き始めました。彼の一番知られている詩集は例えば「月に吠える」や「青猫」などです。私もその二冊を中心に彼の研究をします。日本人に彼の詩のスタイルは暗くて難しいとよく言われました。それはそうですが、明るいところもあります。例えば「月に吠える」の中の「雲雀」という章の初めに彼はその通り書きます。

「五月の朝の新緑と薫風は私の生活を貴族にする。したたる空色の窓の下で、私の愛する女と共に純銀のふおうくを動かしたい。私の生活にもいつかは一度、あの空に光る、雲雀料理の愛の皿を盗んで喰べたい。」

その章の中で彼は自分の生活について話して奥さんに感謝を表します。だからその場で彼の生活に明るい面もありました。

彼の生活をもっと勉強するために前橋を訪問し、そこにある綺麗な萩原資料館に行きました。中で萩原の生活や詩などを紹介された展覧会がありました。皆様をご覧ください、彼の残った原稿もありますので漢字の形と書き方を見ることができます。それは詩というテーマに大事な点だと思います。次は前橋からバスで30分ぐらい離れたお寺の墓地に萩原のお墓がありました。

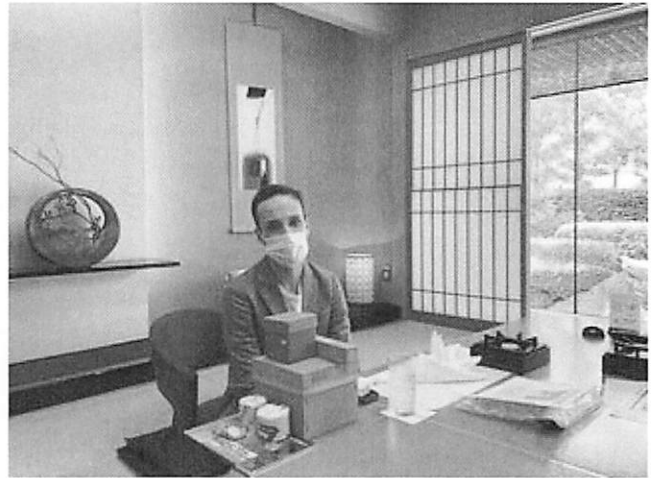
2月は辛島先生と二人のルーマニアの留学生と一緒に京都の金剛能楽堂に行きました。そこで初めて落語と狂言を拝見しました。私は以前、狂言のテキストを読んだことがありますので、日本にいるうちに見に行きたいと思いました。特に京都に行って良かったと思います。落語は少し難しいですが、早口で話されていたので、所々は聞き取れませんでした、いずれにせよ面白いです。

私の次の旅行は沖縄です。一週間で日本学科の二人の友達と一緒に那覇、名護市、ヤンバル国立公園、まんざもう岬、太平洋を訪問しました。気づいたことに沖縄の文化や歴史、習慣、料理などが日本と全然違います。もちろん昔は琉球でしたので、日本からちょっと離れていて、中国から大きな影響を受けたと勉強になりました。いずれにしても沖縄の人は優しくて綺麗な文化を作ったと思います。私は和食が好きで食べ物でもびっくりしました。沖縄料理はちょっと油っぽくて魚と豚肉が豊かです。そしてイラブー汁というヘブスープの美味しさにびっくりしました。健康によく効くと沖縄に人に言われたので食べてみました。

沖縄の交通はちょっと問題でした。なぜかと言うと、電車がなくてバスも少ないです。しかし、一人の友達の彼氏(たいしくん)は、母が沖縄出身で私たちは沖縄を観光した時、お母さんも沖縄にいらっしゃいました。自分の車で太平洋を見に連れていただいて、一緒に世界遺産のセーファウタキの跡も見学しました。その結果、琉球についてたくさん学んだし、ちょうどいい時に飛行機で旅行することができました。

3月末と4月は緊急宣言が始まり大阪まで行けなくなりました。その時は私は自転車に乗って神戸と西宮などを回りました。5月から姫路や伊勢、奈良などに日帰りしました。伊勢は観光客様はいなくて日本人しかいなかったので伊勢神宮の雰囲気を感じられました。伊勢は神道が生まれたところで歴史的な場所です。そこでも夫婦岩を見に行きましてイザナミとイザナギが結婚したところを見て良かったと思います。日暮れも綺麗でした。

6月には奈良にも行きました。東大寺をはじめとして興福寺や法隆寺なども訪問しました。法隆寺の中は古い仏像の展覧会があって観音様の彫刻を見ることができました。東大寺の大仏を見学してから奈良駅の近くにある和食のお店に食べに行きました。親切な店長のおかげで関西風の料理について勉強になりました。この人はよく出汁と卵焼きなどの違い



について話したので、この店に行くかいがあると思います。私は和食が大好きで特に関西風といった料理の作り方が好きになりました。

料理といえば皆様のおかげで美味しいものを食べることができました。お寿司をはじめとしてうどんや季節の特別な料理や美味しい天ぷらなどが味わった。10月に初めて日ポ・サロンのメンバーに会って美味しいランチをいただきました。お寿司、うどんと漬物、かぼちゃ、にんじん、ご飯に加えたちりめんなどを初めて食べました。10月も文楽を見に行った時に皆さんが見られるようなものを食べました。豆腐や唐揚げ、サラダ、レンコンなどをいただきました。本当にちゃんとして並べたものにびっくりしました。形の味といった食べ物の作り方はポーランドにまれに見えないのです。

12月は高島さんと御一緒に谷津さんの家に連れていただいて、美味しい谷津さんでちゃんと作られた洋食をいただきました。クリスマスの雰囲気も感じられておかげでクリスマスはそんなに寂しくなかったです。1月は金子さんに誘っていただきまして美味しい洋食を食べて小川さんと面白いお話をしました。2月は日ポ・サロンのおかげで相撲の朝稽古を拝見いたしました。そこでポーランド人の相撲も会って相撲家の朝ごはんをいただきました。珍しい経験です。他の留学生はそんな経験が全然ないし本当に感謝いたします。最近も高島さんにお寿司屋さんに誘っていただきまして、本物のお寿司をいただきました。美味しかったです。次はご一緒に緒方先生に連れていただいて小筆の練習をしました。私はそんな貴重な経験で本当にありがたいです。緒方洪庵の親戚で驚きました。

7月は松下さんとご主人とご一緒に天ぷら屋さんへ行きました。そこの天ぷらは薄くて美味しいです。

えび、はも、たこ、とうもろこし、梅干しなどの天ぷらをいただいて嬉しかったです。やはり本物の天ぷらを初めて食べました。

次は広島と九州の旅と原爆資料館で受けた影響についてお話ししたいと思います。

7月の26日から8月2日にかけて広島、福岡、長崎を訪れました。18きっぷで行きましたので時間がかかったにもかかわらず綺麗な景色を見られました。広島は2泊で初めて厳島神社を見学に行きました。残念ながら私は着いたとき、その有名な鳥居が工事中でしたのでシートで隠されました。しかし、厳島神社は綺麗で古い神社ですので行くかいがありました。広島に着いてから町をチラッと見て原爆ドームを見に行きました。75年が経ちましたので広島はよく復興されました。そのためそこはそんなひどいことがあったと信じられません。しかし、原爆ドームと綺麗な平和公園のおかげで原爆の恐れを今でも見るができます。同じ日の夜にお好み焼き村というところに広島のお好み焼きを食べに行きました。おばあちゃんが作っていただいたお好み焼きはやはり一番美味しかったです。

関西、関東と広島のお好み焼きの作り方は全然違うし、どうして広島の方は蕎麦を加えるのかと聞いてみました。それは「戦後は食べ物がなかったので栄養が必要になって広島の方は蕎麦を加えてみて好きになりました」と答えました。次の日は原爆ドーム、平和公園を見学してから資料館に行きました。やはり感動して勉強になりました。私たちは4年生の時、広島についてよく勉強しました。たくさんの資料や写真や動画などを読んで小谷孝子さんのインタビューもポーランド語に翻訳した経験があります。この資料館の展覧会、例えば子供の焼けた洋服や爆風で溶けた時計や瓶などに恐ろしかったです。それだけではなく2年前に井伏鱒二の「黒い雨」を読んだことがあります、タイトルの黒い雨をイメージできませんでした。展示された黒い雨で汚された洋服と壁を見て驚きました。私は日本語で書かれた文章と小説などを読めますので、展示された絵と資料などに非常に悲しくなりました。それは悲しいですが是非多くの人に伝えなければなりませんと思います。そこも本屋さんがあり「被爆者が訴える」という文章と蜂谷道彦の「広島日記」を買いました。その日も広島城や縮景園などに行きました。

次の日は福岡に向かいました。そこで大宰府天満宮や南蔵院に寝ている大仏を見に行きました。私は

住んでいるところの近くに美味しいラーメン屋さんがあって、福岡で特別な豚骨を食べました。おそらく日本で一番美味しい豚骨だろうと思います。

次の日は福岡城の跡や日本で曹洞宗の一番古いお寺「聖福寺」や箱崎宮などを観光しました。気づいたことに福岡の人は非常に暖かい人です。私は最後の日に焼き鳥のお店に行きました。そこで私は外国人一人しかいなかったのが良かったと思いました。横に座っている3人の若い人たちに話しかけた。一人の女性は長崎出身で長崎にあるお店を紹介されました。

長崎は私の旅行の終点でした。本当にきれいな町で着いてから早速観光をし始めました。古い大浦教会の場所にあるヨハネ・パウロ教皇の像を見てびっくりしました。次はオランダ坂や平和公園や爆弾の中心地などを見に行きました。そこは浦上天主堂の跡が残っていますので長崎爆弾の恐ろしさを感じました。そのあとは稲佐山に行って長崎市の景色が綺麗に見られました。次の日は長崎資料館に行ってそこにある展示会に感動しました。広島と少し違って爆弾の後に残った日常生活の物がいっぱい展示されています。そして浦上教会の一つの部分が今もそのまま展示されています。それは非常に面白いと思います。なぜかという、形、変わった色と汚れなどが見られるのです。最後の日は海を見に行き海水浴場にのんびりすることができて海にも泳いでいました。そこから軍艦島が見られました。

神戸に帰ってから最後の試験を受けて、まだ行ったことのない美術館などに行きました。清水さんに京都をご案内していただきました。一緒に建仁寺や六波羅蜜寺や銀閣寺なども見学しました。先週もKubik先生に紹介された東影智弘さんと会って一緒に姫路の圓教寺と万葉集の歌人に詠まれた万葉の岬に行きました。最近も川端さんのおかげで茶道のお稽古を体験することができました。私はお点前はそんなに面白くないと思いました。ルールがたくさんあるし覚えられないだと思いました、川端さんと先生のおかげで面白くなり、茶道に興味を持ち始めました。裏千家はやはりルールがたくさんあるし、お点前も非常に難しいです。ふくさの折り方、茶杓の持ち方、体の動きまで厳しいルールがありますが、何回も繰り返してきたら楽しくなります。

最後に、私の将来にの予定について少し教えたいと思います。私はポーランドに帰った後、修士課程の1年間があります。その時修士論文を書いて卒業します。卒業したら私は博士課程に入りたいと目指

していますがどうなるかとまだ確認されていません。しかし、入ったら現代文学を研究することができて、もう一度研究生としての留学の可能性があります。そのため日本文学の知識が高くなり研究者になる可能性もあります。私はもちろんポーランドと日本の間の仕事を目指しています。例えば、通訳者の仕事は面白そうです。いつも新しい言葉、生活の分野をもっと勉強することができますし、珍しいところ、例えばトヨタの工場とか会社の会議とか参加することができます。そして普通の生活で会わない人と会う機会がたくさんあります。外務省の仕事もよく考えましたが、外交官になるため難しい試験を受けないということです。私は国際関係と政治に詳しくないので、そのような仕事は私に合わないと思います。もちろん考えた上で決められます。最初は博士過程を目指しています。

さて、日ポ・サロンの皆様、皆様の支援のおかげで私は日本語を勉強することができて研究を進めることもできました。それだけではなく旅行する可能性があり色々日本の地方を見学することができました。そのため皆様に深く感謝申し上げます。私は皆様のおかげで日本の礼儀についてたくさんの学び、いつも他の人の立場になって考えた方がいいです。そして、私は多くの皆様にお世話になってご迷惑をおかけしましたので大変申し訳ございません。しかし、その結果私はもっと勉強になり色々アドバイスをいただきました。それは私たちの人生の使命ではないでしょうか？そんな貴重な経験をいただいて誠にありがとうございます。何回も言いましたが、私の留学は皆様のおかげでした。そのため心より感謝を申し上げます。



緒方先生より贈呈された硯セット
緒方先生のご指導を受けて、俳句2首（トーマス・ディモフスキ書）

追記・広島、長崎訪問

私は7月末に広島と長崎を訪問しました。悲しい歴史があるその二つの町は今までよく復興されましたので75年前に爆弾投下があって信じられません。私はいつも広島のことを心掛けていて日本にいるうちに広島と長崎を見学することが当たり前なことだと思いました。日ポ・サロンのおかげでそれができました。

私たちは日本学科の学生として広島のことについてよく勉強しました。例えば、被爆者のインタビューを見たり、残った資料や手紙などを讀んだりしました。しかし、広島を訪れるのは違うことです。私は広島に着いてから原爆ドームや平和公園などを見学しました。広島はとても美しく古い街で残った原爆ドームのおかげで原爆の恐ろしさを見ることができます。原爆ドームはそのまま残っていて、混乱された煉瓦があり非常に恐ろしい景色です。そのため私たちは原爆の恐怖を感じられます。平和公園は単純な場所でモニュメントの前から真ん中にある原爆ドームが見られます。それは事実によれた計画だと思います。佐々木さんの折り紙と想像もあり色々な国から「PEACE」や「No more war」のような贈物などが読めます。

前述べた場所を見てから平和記念資料館を見学することにしました。建築は平和公園と同じく単純な建物です。それは価値観を表わす意味だと思います。中は被爆者の写真や資料や死者のデータなどが展示されていますのでとても感動しました。爆風で燃えた洋服、溶けた時計、亡くなりそうなお母さんから子供達までの手紙を見学しました。たくさんの物だけではなく日常生活、個人的な物が展示されています。そのような個人的な物を見て被爆者に近づいて更に感動させる。被爆者の写真は非常に怖いですが、それはいい点だと思います。今でも体の傷だけではなく心理的な傷も残っていると明らかになる。

長崎は国際的な雰囲気があり宗教的な街という印象を受けました。着いてから大浦教会を見に行きました。そこでヨハネ・パウロ教皇の像があって驚きました。教会は古くて綺麗な建物です。近くもオランダ人で作られた道があり面白い歴史を持っている場所です。広島と違って爆弾投下の中心地が綺麗にされている。残った土と溶けた瓶などがガラスに展示され浦上天主堂の跡も見られます。そのため爆弾の恐ろしさを感じることができます。平和公園は坂にあり、世界中で知られている祈念像が建っており

ます。そして横に並べている刑務所の跡が見られます。そこで多くの囚人と警察官が亡くなり一つの壁でも残っていない。長崎の記念資料館も綺麗な建物で中に爆弾の展示会を見学しました。被爆者の写真や時計、手紙、洋服、お弁当のような個人的なものが展示されていて非常に感動しました。私は特に広島のことについて勉強しますが、長崎は何となく忘れてしまうと気づきました。そのため長崎を見学して勉強になりました。そこでも永井隆という優れた人について初めて聞きました。彼は原爆症を受けすぐ病気になるが、他の被爆者や子供などに死ぬまで助けていました。

以上で、私は広島と長崎を訪問して本当に良かったと思います。おそらく個人的に見学するのは一番勉強になるだろう。私には広島と長崎のことを更に伝えた方がいいと考えられます。そのようなことがもう一度起こさないよう。

////////////////////////////////////

「留学生トーマス君との京都観光と送別会」

清水 理

はじめまして、清水 理と申します。少しでも自己紹介させてください。私は生まれも育ちも京都で今は芦屋に住んでおります。東洋アルミニウム(株)という素材メーカーで財務を担当しており、目まぐるしい日々を送っております。この春、縁あって日ポ・サロンに入会させていただきました。さて8月にトーマス君を京都案内した際のエピソードと送別会の感想を寄稿させていただきます。

彼を京都観光に誘ったのは8月12日。“お盆の京都”を思い浮かべた人の想像通りの酷暑の一日でした。10時に河原町で待ち合わせて先ず建仁寺に参りました。聞けば御朱印帳を持ち歩く程の寺院好きで京都には4～5回訪れているとの事だったのですが、建仁寺は初めてだったようで風神雷神図や双龍図の天井画を目に焼き付けました。石庭を見ながらしばらく静寂を楽しんだ後、六波羅蜜寺と六道珍皇寺を訪ね、昼食をとりました。そこでは、神戸での生活や日本での旅先の話、将来の話などの話をしてくれました。話をしている丁度その時に彼の携帯に“神戸大学が何者かに爆破予告を受けているので19日を休講にする”という一報が入った時に驚いた事を今書きながら思い出しました。

昼食後、八坂神社にお参りしたのですが、そこに厄年早見表が掲げてありました。そこに男性の本厄

は“平成8年生まれ25歳、昭和54年生まれ42歳…”などと書いてありました。厄年とは何かと彼に説明したところ、自分はまだ24歳だから大丈夫だと安堵していたのですが、日本には数え年の概念があり生まれた歳を1歳として数える、なので丁度本厄の年だと伝えたと、コロナのせいで自分の思うように動けなかった事や厳島神社の大鳥居が修復中で覆いに隠されていたのは本厄のせいだったのだ！とボヤいていました。年号や厄年や数え年といった日本独特の風習の話をしたのが大変印象に残っています。

その後、銀閣寺に移動し、拝観し終わった頃に夕立に見舞われたので、近所の私の実家に招待し、私の両親と夕食を一緒にしました。

12日後の8月24日の送別会に参加させていただきました。私にとって初めての日ポ・サロンの会合の参加でした。(3月の三重の梅見にもエントリしていたのですが中止となり残念でした...)送別会ですら開催を懸念していたと聞きましたが、感染対策に細心の注意を払う事で、彼の留学生生活を労い送り出す場ができて本当に良かったと思います。

肝心の発表は大きく研究内容報告と日本での旅行記の二つだったと記憶しています。研究対象の萩原朔太郎の詩は日本人が持っている“繊細で暗い”という印象から、やや遠慮がちの発表でしたが、もう少し積極果敢に研究成果や自分の考察を伝えても良かったと思いました。しかし、その中でも詩の中で温かみを感じさせるところがあることを教えてくれ、彼の朔太郎への愛を端々に感じる事ができました。旅の話では、広島、長崎、沖縄、群馬などを訪ねて感じた事を新鮮な気持ちで聞き入りました。全般的にグルメの写真が多めでしたが(笑)、それも彼らしくて良かったと思います。ポーランドに帰っても何か日本で学んだ事を活かして活躍してほしいと思いました。

以上、結果的に徒然なるままの感想文になってしまいました。これからもよろしくお願い致します。



「ポーランド今昔」

大和田 隆

私がポーランドへ行ったのは過去3度あります。

①1976年（昭和51年）イアエステ（理工系学生の研修）会員としてクラクフの金属材料研究所へ夏季研修生として2ヶ月。

②2018年（平成32年）個人旅行で13日間。

③2019年（令和元年）個人旅行で9日間。

日本の状況、ポーランドの国内情勢は現在、インターネット等が発達しているので理解し易いですが、我が目で確認したい為、②③の旅行を①から40年超経過して行いました。

①の時点ではポーランドは鉄のカーテンの向こう側、共産圏内です。②③の時点ではEU、NATOの一員でもあり、経済的にもEU内で唯一10年以上プラス成長を続けています。

①当時では、前体制であり、ポーランド人には聞きたくない辛口内容も多くあると思いますがご容赦願います。

①で到着したのは6月下旬の事で、ポーランド人学生に新聞を示されながら、小麦、砂糖、ミルクなどの基本的食料品が一挙に2～3倍に値上げされ、大変な時に来たと言われました。案内された食品スーパーの棚は空っぽであり、噂に聞いていた経済困窮、品不足は深刻であると当時思ったものでした。

もう一つの経済的事柄ですが、いわゆる『闇ドル』市場です。当時、1\$=33ズオティが公式レートですが、1\$=100～120ズオティで交換する人も存在しました。それだけドルの実勢値が強かったということなのでしょう。実際、外資系ホテルの売店には外貨ショップコーナーがあり、外貨では安く（闇レートに比例して）買う事ができました。街にはPEWEXというドルショップもあると聞きました。

ポーランド出国時、東独国境のズゴルジェッツ駅で財布内ポーランド紙幣を少額ながら没収されました。紙幣持ち出し禁止であり、1年以内に再入国時に、没収金額を返却するという？用紙を手渡され、ポーランド紙幣を使い切るよう忠告してくれた人の話を身をもって理解できたのを昨日のように覚えています。東独通過時、途中リプツィック駅（ライプツィヒか）で乗換でしたが、夜間のため外は真っ暗で電力事情が悪いのか節約しているのか、駅舎外へは出る勇氣

はありませんでした。

東独から西独へ向かうにつれ乗客はどんどん減り、一人の老婦人が西独へ親戚に会いに行くと言い、行ける理由が65歳以上なので労働力にならないからだった。

「バカ」げた政策だと言っていた。東西独国境でも東から西への逃亡者がいないか徹底した列車内捜査があり、座席下の網内の部分も懐中電灯で照らしていた。窓外を見ると、複数の国境警備隊員がジャーマンシェパード犬を傍らに座らせ列車の方を警戒していた。列車が国境を通過して西独に入ったら取り調べに來たが、「日本人か？」「はい」で終わりパスポートさえも調べられなかった。

①グダニスク近郊の先の大戦記念碑としてソ連軍戦車T34があったが、現在はもう撤去されているであろう。ソ連軍がナチスドイツを追撃したのは事実であろうが、大戦開始の原因となった独ソ不可侵条約に続き、秘密協定ポーランド分割統治に従い、ポーランドを二分割したのは独ソ二国である。それをマッチポンプという。

②ワルシャワ大学の少し北側に位置する大統領官邸の道路側に文字板3枚があった。よく見ると「スモレンスク 2010年4月10日と多くの人名」があったので、すぐ閃いた。

これは『カティンの森事件犠牲者追悼式典』に向かう飛行機が墜落し、乗客乗員約100名全員の慰霊碑である。亡くなった人の中には当時のカチンスキー大統領夫妻、カティンの森事件犠牲者遺族も多く含まれている。ここでカティンの森事件についても再確認したい。

ポーランド分割統治していたソ連領内で起こされた事件である。ソ連当局によりポーランド将兵、警察官等二万二千人の捕虜が処刑された件である。後にソ連領に攻め入ったナチスドイツが埋葬遺体を発見し、全世界に宣伝したが戦後ソ連圏に入ったポーランドは表立った抗議もできず時は過ぎた。ソ連のゴルバチョフ政権が、自国の犯行を認め謝罪したのは1990年、犯行から50年も経過した時である。

アウシュビッツ等、ユダヤ人ほか虐殺の陰に隠されてあまり知られていないこのカティンの森事件も、いかなる文明観、人間性をもって行えるのか考えさせられるもの大である。戦争の狂気で済ませるわけにはいかないだろう。

まだ大戦の爪痕が多く残っていた一回目のポーランド訪問時から40年余り経過して訪れ、発展したポーランドの変わった所や変化のない所を写真も交えて紹介



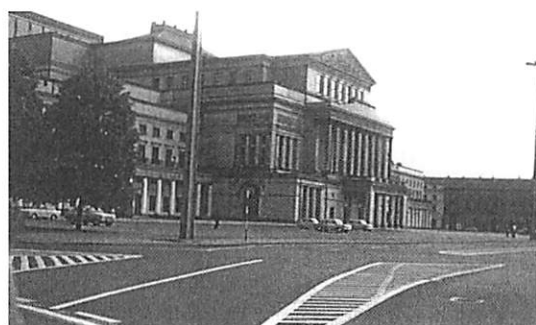
ワルシャワの高塔から南東方向を見る。
高塔の写り込まない最も良いながめ(1976年)



クラクフマリア教会(1976年)



クラクフマリア教会(2018年)



ワルシャワオペラ会館(1976年)



ワルシャワオペラ会館(2019年)



大戦記念碑 ソ連軍T34(1976年) グダニスク近郊



ポーランド大統領官邸まえ(2018年) 柵越しに3つの追悼碑



クラクフ駅(1976年) 現在は地下駅



旧クラクフ駅(2018年) 現在は歴史博物館



クラクフ旧市街中央広場(1976年)



クラクフ旧市街中央広場(2018年)



クラクフ旧市街中央広場 マリア教会と対角位置の塔(1976年)



その塔から地上を見る。現在は駐車している車はない(1976年)

関西在住日ポ・サロン後援留学生(2020年度)

マルチン・タタルチュク	京都大学文学部大学院現代文化学専攻
ヤヌシュ・ミトコ	京都大学文学研究科現代史学専修
トーマス・ディモフスキ	神戸大学国際文化学部



ポーランド留学生支援団体 日ポ・サロン

<http://nipposalon.org/>

ホームページには、創刊号及び20周年記念誌(「20周年活動記録」に掲載)、会報第11号～第20号まで(「会報」に掲載)、その他、諸事全般についても掲載しておりますので、是非ご一読ください。



＜ 編集後記 ＞

2020年度は新型コロナ感染で緊急事態宣言が発令されて外出禁止で楽しみにしていました3月の梅見は中止になりました。トーマス送別会は入念な感染対策で何とか実施できトーマスは留学生活について報告でき、皆様に留学御礼が伝えられ喜んでいました。活動・行事が制限されて会報内容も少ないですがトーマスの報告が読み応えあり、ゆっくりお読みいただければ有難いです。一日も早く感染収束して穏やかな日々となりますように祈るばかりです。

事務局 岸 本 啓 子